

平成30年6月12日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370266

研究課題名(和文) 20世紀半ばのカルテットの世界観の分析

研究課題名(英文) Analyses of the World of Musico-Literary Quartets in the Mid-Twentieth Century

研究代表者

馬籠 清子 (MAGOME, Kiyoko)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：60463816

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：モダニズム期に世界同時多発的・爆発的に、「弦楽四重奏」のイメージを様々に浮かび上がらせる文学作品が登場しているという事実に着目し、「20世紀半ばのカルテットの世界観の分析」を展開した。これは、前研究課題「モダニスト四重奏文学の共時的分析」からの発展であり、また、次の研究課題「古代・ルネサンス期の宇宙観とモダニズム期四重奏文学開花との関係性の分析」の土台となる研究である。具体的成果としては、本研究課題に取り組んでいる期間中、毎年、海外での査読付論文や研究書の章の出版、あるいは、海外の国際学会での発表を行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, based on the fact that literary works evoking the image of the string quartet appeared almost simultaneously all over the world during the modernist period, "The World of Musico-Literary Quartets in the Mid-Twentieth Century" was explored. This Kaken research is the continuation of the previous one, "Synchronic Analyses of Modernist Musico-Literary Quartets" (2008-2012), and has also been followed by the next one, "Analyses of the Relationship between Visions of the Universe in the Ancient and Renaissance Periods and the Flowering of the Modernist Musico-Literary Quartets" (2018-2022).

The results of this research have been published as journal articles/book chapters in the United States and/or presented at international conferences every year.

研究分野：人文学

キーワード：カルテット 弦楽四重奏 20世紀半ば モダニズム

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究課題に取り組む前に、その土台となる約 15 年間の日米での研究があった。最初の約 10 年間は、アメリカの大学において、musico-literary, socio-aesthetic studies という音楽と文学、そして、これらの芸術と社会との関係性を分析する学際的研究に取り組んでいた。特に、1890 年から現代までのアメリカ文学と西洋音楽との関係、これらのハイブリッドな芸術的表現と実際の社会との関係に焦点を当ててきた。その成果は、*The Influence of Music on American Literature Since 1890: A History of Aesthetic Counterpoint* (The Edwin Mellen Press) という査読付の単著として 2008 年にアメリカで出版された。

(2) 拠点を日本に移してからは、musico-literary, socio-aesthetic studies を、時期的には焦点をモダニズムの時代に絞りつつ、地域的にはアメリカ以外にもヨーロッパやその植民地となっていた国々に広げながら継続した。また、漠然と音楽と文学、芸術と社会との関係を分析するのではなく、音楽の中でも、特にモダニズムの時期に文学作品で目立った活躍をした「弦楽四重奏」のイメージや役割に注目することにした。さらに、日本において、音楽を利用したある 1 つの文学作品、あるいは、音楽をよく利用するある 1 人の作家についての分析などは、数多く発表されてきたようだったが、musico-literary, socio-aesthetic studies という形での体系的な研究は見かけなかったため、2008~2012 年度の科研費研究課題「モダニスト四重奏文学の共時的分析」に取り組んだ。本研究課題「20 世紀半ばのカルテットの世界的世界観の分析」は、前研究課題における分析を、さらに深め広げるためのものである。

2. 研究の目的

(1) モダニズム期に世界同時多発的・爆発的に「弦楽四重奏」のイメージを様々に使った文学作品が登場しているという事実は、ただ単に面白いだけでなく、重要な謎である。例えば、それらの作品を書いた作家の多くが、ノーベル文学賞を受賞するなど世界的に評価も人気も高く、さらに、彼らやその作品を分析する研究者が世界中に数多く存在してきたにも関わらず、なぜかこれまでこの視点からの研究は、全くと言えるほど行われてこなかった。ここに注目し、「20 世紀半ばのカルテットの世界的世界観」を明らかにしていくことが本研究最大の目的である。

(2) 前研究課題に取り組んでいる間に、「モダニスト四重奏文学」や「20 世紀半ばのカルテットの世界的世界観」の謎を解き明かすには、モダニズム期という限定された時代や、音楽（弦楽四重奏）・文学という特定の芸術・学問領域に注目しているだけでは全く通用しないということが明らかになってきた。その

土台が長い歴史と幅広い芸術・学問領域にあると分かったのである。時代的には古代ギリシャから当時まで、芸術・学問の領域としては美術・哲学・思想・心理学などを幅広く見つめながら、「20 世紀半ばのカルテットの世界的世界観」の分析に取り組んでいく。その際、重要な 1 つの鍵となるのが「4」という象徴的な数であるのは確かなので、四重奏はもちろん、四大元素、四季、四方、四体液説、四気質説、などの伝統的なものの見方・考え方の影響にも注目していく。

(3) 本研究課題に取り組む期間中に、注目する作家のうちの 1 人である Carson McCullers が生誕 100 年（及び没後 50 年）を迎えるので、世界中で彼女の作品研究が高まる中、国際学会や海外で出版される研究書に、「McCullers 作品における音楽・文学の関係性、弦楽四重奏のイメージの重要性」という視点での分析によって貢献する。

3. 研究の方法

(1) 本研究の土台の大きな部分は、アメリカでの研究と前研究課題「モダニスト四重奏文学の共時的分析」なので、そこからの展開という形を取る。これまでの研究で、まだ十分に分析が行われていないと思われる部分の研究に力を入れる。例えば、1930 年代半ばから 1940 年代がモダニスト四重奏文学の黄金期と言えるが、その前後、1920 年代から現れ始める四重奏文学作品や、1950~1960 年代にも変化を見せながら登場し続けている四重奏文学作品、さらには、これらの作品と深く関連している各種芸術・学問領域の動きに注目しながら、「20 世紀半ばのカルテットの世界的世界観」を捉える。

(2) 具体的な分析対象は、Virginia Woolf の *“The String Quartet”* (1921)、Aldous Huxley の *Point Counter Point* (1928)、Jean Rhys の *Quartet* (1929)、Carson McCullers の *“Court in the West Eighties”* (c1934) 及び *The Heart Is a Lonely Hunter* (1940)、T. S. Eliot の *Four Quartets* (1943)、Thomas Mann の *Doctor Faustus* (1947)、Lawrence Durrell の *The Alexandria Quartet* (1957-60)、Doris Lessing の *The Golden Notebook* (1962)、そして、Vladimir Nabokov の *Nabokov's Quartet* (1966) とする。

(3) 20 世紀前半から半ばにかけて活躍した芸術家・研究者の中で、特に上記の作家たちが注目した「4」の象徴性・重要性に直接的・間接的に影響を与えた者、あるいは、同時期に類似した強い関心を持っていたと思われる者の作品や出版物を丁寧に分析する。具体的には、Arnold Schönberg、Theodor Adorno、Carl Gustav Jung、Gaston Bachelard、Erwin Panofsky などの仕事である。

(4) 前述の通り、Carson McCullers の生誕 100

年（及び没後 50 年）を祝う学会や研究書の企画が多くなることは確実なので、この機会を利用して、彼女の作品に関する研究を集中的に進める。

4. 研究成果

(1) 毎年、海外の査読付論文・研究書の担当章の出版、あるいは、海外の国際学会での発表を 1 件ずつ行った。まだ発表という形を取っていない研究内容も残っているが、本研究に取り組んだ期間に発表したもの、及び発表が決まったものは以下の通りである。

(2) 2013 年に出版した“Secret Function of a String Quartet in Doris Lessing’s *The Golden Notebook*”では、表面的には強調されていない弦楽四重奏のイメージとその機能に注目した。具体的には、冒頭で語られる音楽への憧れ、作品半ばで登場する舞台上の弦楽四重奏团的イメージなどの重要性に注目し、この有名な小説に新たな解釈を与える試みを行った。4 色のノートにそれぞれ別々の内容を書き進めるという語り的手法を取る作品だが、そこに弦楽四重奏のイメージが二重写しになって現れるという指摘をし、クライマックスに登場する 5 冊目に当たる黄金のノート（小説全体のタイトルでもある）の意味合いについても議論した。これは 1962 年に出版された小説であり、Durrell や Nabokov の作品同様、弦楽四重奏のイメージを明確に表現することはないが、1950～1960 年代においても、そのイメージは密かに重要な働きをしているということがよく分かる、モダニズム期から次の時代への転換を示す代表例と言える。

(3) 2014 年にバンクーバーで発表した“Place in Durrell’s *The Alexandria Quartet*”では、これまで出版したことのある自らの解釈を、さらに発展させた。Alexandria という強烈に人を魅了し、文明の中心として長い間機能してきた場所が、小説のクライマックス近くでもう一度主要登場人物たちを引き寄せた後、求心力を失うかのように空白状態になるという点に注目した。四部作の最後に浮かび上がってくるこの独特の構造は、指揮者の不在によって明確な中心の不在を感じさせる弦楽四重奏的な構造の登場という解釈が可能であり、その理由について詳しく述べた。また、最後の頁に登場する古代以来の「4」の伝統を感じながら未来に明るさを見出す場面は、Jung が注目した東洋のみならず世界中に見られるマンダラ的な構造と、その心理的象徴性とも深く関連付けられ得ると指摘した。

(4) 2015 年に出版した“Expand and Revise the History of Western Literature: Michael Cunningham’s *By Nightfall*”は、現代アメリカ小説 *By Nightfall* の日本語翻訳を手掛けたことをきっかけに、本研究課題との関連を考慮しながら執筆したものである。この小説は、二

ューヨークの美術界や家族の問題などを具体的に扱う一方、文学・美術・音楽の歴史を柔軟に、ダイナミックに捉え直す視点について考えさせる作品でもあり、これは本研究課題を進めるに当たって、視点の取り方に重要な影響を与えた。

(5) 2016 年に研究書 *Carson McCullers in the Twenty-First Century* の中の 1 章として、“The Image of the String Quartet Lurking in *The Heart Is a Lonely Hunter*”が出版された。McCullers は幼い頃からピアニストを目指していた作家なので、彼女の文学作品に様々な音楽の要素が登場し、重要な役割を果たすのは自然なことなのだが、今回は、特にデビュー作に注目した。この作品では、作者本人が後にエッセイの中でも述べている通り、語りの技法に音楽のフーガや対位法の影響が大きく、それは明確すぎて指摘するまでもない。しかし、さらに深い部分には、作者自身が意図したかどうかは不明であるが、弦楽四重奏のイメージが存在していると指摘し、その分析を行った。4 人の孤独な主要登場人物が、言葉を発せられない“Singer”という人物に勝手な妄想を抱いてそれぞれに近寄っていくが、Singer は自殺し、期待されたコミュニケーションの中心は完全に失われてしまう。こうなってしまった社会的構造はどう機能し、変化していくのかという点について、作者は意識的・無意識的に、第二次世界大戦に突入する直前のアメリカ社会と弦楽四重奏のイメージとを重ね合わせながら、読者に未来を思い描くよう促しているのではないかと論じた。

(6) 2017 年にローマで発表した“Carson McCullers’s Musico-Literary Democracy”では、1941 年末にアメリカが第二次世界大戦に突入した直後に出版された短編“Madame Zilensky and the King of Finland”を分析した。音楽学部を舞台とした作品で、ここでも自然な形で対位法、カノン、フーガという音楽の構造を示す専門用語がキーワードとして登場し、重要な役割を果たしている。この作品が他の作品と大きく違うのは、音楽にまつわるキーワードに混ざり、“democracy”という単語が強い印象を残すように一度だけ登場するという工夫がされている点である。その重要性和音楽のキーワードとの関係を示すため、まず、前年の 1940 年末に F. Roosevelt 大統領がラジオを通して行った“Arsenal of Democracy”としてのアメリカという発言に触れた。さらに、この短編が 1941 年 12 月 20 日号の *The New Yorker* でどのように発表されたかを画像も使いながら議論した。具体的には、真珠湾攻撃のカリカチュアが大きく描かれた頁の直後にこの短編が登場し、さらにその直後には第二次世界大戦に突入したアメリカについての記事、及びドイツからの亡命作家 Thomas Mann と“democracy”との関係を示す記事が続いているという事実を示

しながら、当時のアメリカの人々が、“democracy”を大きなキーワードとしながら、どのようにして参戦へと向かったのか、また、音楽の対位法やカノンやフーガといった構造が象徴するものの考え方のうち、“democracy”をどれとどのように関連付けたと考えられるのか、という点を議論した。

(7) 2018年に研究書 *Understanding the Short Fiction of Carson McCullers* の中の1章として、“Carson McCullers’s Musico-Literary Narrative and American Democracy during World War II: ‘Madame Zilensky and the King of Finland’ in the Socio-Political Context”が出版されることが決定している。(6)のローマでの発表が好評だったことから、公募情報が伝えられ、実際の公募による審査を経て出版が決まっている。

(8) 研究成果は、海外での出版や国際学会での発表だけでなく、授業にも大きく反映されている。例えば、「総合科目」では、弦楽四重奏の構造やイメージに注目することで、モダニズム期の文学の中で大活躍する弦楽四重奏の具体的役割はもちろん、古代ギリシヤ以来の「4」にまつわる宇宙観・世界観、東洋だけでなく世界中に見られるマンダラ的構造、それらの構造と人間の心の世界の構造との関係性などについて講義をしている。学生にとって、1つのテーマから、深みと広がりのある世界を考える刺激になっているのではないかと思う。

(9) 本研究課題は、さらに、2018～2022年度の次の科研費研究課題「古代・ルネサンス期の宇宙観とモダニズム期四重奏文学開花との関係性の分析」として展開していく。さらなる分析を進め、その成果を最終的には1冊の査読付研究書として海外で出版する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

Magome, Kiyoko. “Expand and Revise the History of Western Literature: Michael Cunningham’s *By Nightfall*.” *Notes on Contemporary Literature* 45 (1&2): 2015, 7-9. 単著. [米国・査読付]

Magome, Kiyoko. “Secret Function of a String Quartet in Doris Lessing’s *The Golden Notebook*.” *Notes on Contemporary Literature* 43 (1): 2013, 2-4. 単著. [米国・査読付]

〔学会発表〕(計2件)

Magome, Kiyoko. “Carson McCullers’s Musico-Literary Democracy.” Presented at

Carson McCullers in the World, Rome, Italy, 2017.

Magome, Kiyoko. “Place in Durrell’s *The Alexandria Quartet*.” Presented at the International Lawrence Durrell Society Conference, Vancouver, Canada, 2014.

〔図書〕(計2件)

Magome, Kiyoko. “Carson McCullers’s Musico-Literary Narrative and American Democracy during World War II: ‘Madame Zilensky and the King of Finland’ in the Socio-Political Context.” *Understanding the Short Fiction of Carson McCullers*. Eds. Alison Graham-Bertolini and Casey Kayser. 印刷中 [米国・査読付]

Magome, Kiyoko. “The Image of the String Quartet Lurking in *The Heart Is a Lonely Hunter*.” *Carson McCullers in the Twenty-First Century*. Eds. Alison Graham-Bertolini and Casey Kayser. New York: Palgrave Macmillan, 2016. 97-111. [米国・査読付]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

馬籠 清子 (MAGOME, Kiyoko)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号: 60463816